理事長

対談 PART 2

林 達夫先輩

Tatsuo Hayashi

東京JC 1971年度副理事長
アークデザイン株式会社 取締役 会長

この人は自分の人生に大切な人と思われる振る舞いが大事

塩澤　先輩はJCに入会されてからしばらく委員会にも参加されなかったですよね。1960年（昭和35年）に入会して1968年（昭和43年）の経済活動委員会まで何の履歴もございませんでした。

林　行ってなかったんだよ。でも昭和42年、ばったり会った理事長に「林達夫君、俺、今理事長をやっているんだよ。一緒に入った仲じゃないですか。一つよろしく頼むよ」と言われて。本人は覚えてないけれど、こっちは生まれて初めて名前をちゃんと呼ばれたから覚えている（笑）。その経験から、僕は絶対にどんな時でも名前はフルネームできちんと呼ぶように言っています。一代で会社を大きくした社長さんからも「人とのお付き合いが大事。きちんとしておかないと、自分が何かやる時、人が集まってこない」とお話を伺って。まずは「いろいろな集まり、法人会や商工会議所などに入って、とにかく顔を出す。時間の長さではない。まず自分が出ていかなければだめだ」と教わりました。

塩澤　それでJCに戻られた。そして、その後に委員長をおやりになってますね。

林　その時期、東京ではなく箱根でのセミナーに来てもらおうという計画があがって、講師を呼ぼうと三菱銀行（当時）の頭取だった田実渉さんに依頼に行ったんだ。通された応接間の椅子が革張りで凄すぎて「どこへ座るのか」と思いあぐねて、立って待っていた。そこに頭取が来て「なんだ君、立って待っていたのか」と言って「いいよ。若い人に話すの。行くよ」なんて簡単にOKしてくれたんだ。

塩澤　今の東京JCだと頭取をお呼びするのは並大抵ではない…。先輩は何かルートがあったのですか？

林　何もないですよ。でも、応接間で立って待っていたということが、その後の人生を変えた。それから、田実さんの秘書だった慶応の先輩が箱根セミナーに同行せず、代わりに頭取のお世話を汗びっちょりになってやったんだ。そこで、田実さんに「あの男」と思ってもらえたのかな。後日、「先輩の代役をやったことが経営や人選にもプラスになっているんです」とその先輩に言ったら「用事があるというのは嘘だったんだ。同期の酒を飲む会だった」と先輩は笑って。でも、もし先輩が同行していたら、出番もなくて汗をかくこともなかった。だから先輩には本当に感謝している。

塩澤　先輩の話を聞いていると、義理や人情というものが人を色々な場面で変えると感じます。それを長い期間、全国各地でお話になってきましたよね。

林　現代では、社会自体が義理や人情を重視しなくなったように言われますが、僕は基本的に人は変わらないと思いますね。基本的に人間の生き方というものは、義理や人情、浪花節が根っ子にある。だから、人との心のつながりがある方が、僕は最終的に勝つのではないかなと、そう信じてやってきているんですけどね。